

静岡県公立大学法人

令和4事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

(案)

令和5年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 静岡県公立大学法人の令和4事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、令和4事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期の中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

静岡県公立大学法人（以下「法人」という。）の令和4事業年度の業務実績に関しては、全体として「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡県立大学及び同短期大学部が、社会の発展に寄与する「知の拠点」として、年齢層や国籍を問わず、多様な人材が集まる大学づくりを推進するとともに、地域に立脚した大学であるという認識を深め、積極的に地域貢献に取り組むほか、地域への理解とグローバルな視野を兼ね備えた、グローバル化社会で活躍できる人材育成に努めるなど、本県のみならず、国内外から支持される魅力的な大学となることを目指して計画を策定し、遂行している。

第3期中期目標期間の4年目である令和4事業年度は、中期計画及び年度計画に基づく数々の目標の達成に向けた取組を着実に進めた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況については、「第3項目別評価」のとおり、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」、「その他業務運営に関する重要目標」の4項目について「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と認められる。

これらの状況と令和4事業年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 令和4事業年度の重点的な取組

ア 研究活動の推進及び成果の活用について

薬学分野において、疾病の病因・治療・予防に関する研究成果を上げ、最高水準の国際学術誌に掲載されたほか、食品、栄養、環境分野においても、研究成果が著名な国際学術誌へ掲載されるなど高い評価を受けた。また、経営、公共政策、情報、観光分野における地域の課題解決に向けた調査研究も行われ、今後、大学全体の各研究分野の成果の地域への還元の実や、企業と協働した産業の振興への貢献が期待できる。(No. 42、43、45)

イ 外部資金の獲得について

科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費などの外部資金の獲得金額及び件数が数値目標を大幅に上回り、過去最高の獲得件数となった。科学研究費補助金を申請または継続中の教員の割合が96%を越えたほか、若手研究者の採択率が全国平均40%を大きく上回る70%となり、全学的な取組の成果が見られる。(No. 51、74)

ウ 地域に根ざした活動の展開について

大学主催の公開講座や県内市町及び大学と連携した市民向け講座を開催し、数値目標を大きく上回る参加者数を維持したほか、専門的なプログラムを実施し、**県民の学習機会を提供した**。また、高大連携事業として、教員及び学生を高等学校へ積極的に派遣したほか、県内自治体や金融機関との連携協定に基づき、**SDGs、観光、防災などの分野で地域貢献活動を展開した**。
(No. 55、56、57)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・大学院の博士／博士後期課程における大幅な定員未充足については、**教学面だけでなく経営面からも今後の対応策を検討し、早急に大学院全体の将来構想を議論されたい**。(No. 27)
- ・実績報告書の作成に当たっては、各取組を実施した結果として生じた成果、または中期計画及び年度計画の達成度合いを記載されたい。
- ・第3期中期目標期間の後半に入ったことから、**大学全体の中長期的な方針、中期目標及び中期計画の達成に向けた具体策を示し、取組を着実に進めていく必要がある**。

[参考]項目別評価の結果

	I	II	III	IV	V
1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	特筆すべき進捗状況	順調に進んでいる	おおむね順調に進んでいる	やや遅れている	重大な改善事項がある

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の66項目中3項目が「計画を上回って実施している」、59項目が「計画を順調に実施している」と認められた。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ウィズコロナ時代の新たな医療環境に即応できる薬剤師を養成するため、文部科学省の補助金を獲得し、医療面談などの実習に活用できるVR^{*1}教材を制作した。(No. 2)
- ・国家資格試験対策の充実に努めた結果、令和4年度も引き続き、**薬剤師国家試験の合格率の目標数値(90%以上)を達成**して全国の合格率を大きく上回り、高水準を維持した。歯科衛生士国家試験において、7年連続で新卒者の合格率が100%を達成し、介護福祉士国家試験では4年連続で合格率100%を達成した。(No. 14、17)
- ・英語教育の改善やCOIL^{*2}型授業の展開など、グローバル教育の推進に努めた。国際関係学部におけるTOEIC L&R IPテスト目標スコアを達成した学生の割合が目標を上回った。(No. 21、22、62)
- ・学内システム上に学生が意見を伝えるための入力フォームを設け、寄せられた意見をもとに、食堂の改善などの具体的な対応を行った。また、企業訪問や卒業生への働きかけにより、奨学金や寄附金の確保に努めるなど、学生支援に尽力した。(No. 37)
- ・国際学会や講演会等を積極的に企画し、開催した結果、国際シンポジウム等への海外研究者等参加者数が数値目標75人を大きく上回る672人(オンライン参加含む)となった。(No. 65)

※1 VR(virtual reality) : コンピューターによって創り出された仮想的な空間などを現実であるかのように疑似体験できる仕組み。

※2 COIL(CollaborativeOnlineInternationalLearning) : オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、国際的・双方向的な新しい教育実践の方法。情報通信技術(ICT)ツールを活用し、海外の学生と様々な分野のプロジェクトをバーチャルに連携しながら実施することで、国内に居ながら海外大学の学生と協働して学習できる。

(4) 課題とする項目

- ・令和4年度に実施した入試において**出題ミス**が発生したため、再発防止と信頼回復に向け、全学を挙げて取り組む必要がある。(No. 27)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・**看護師国家試験及び助産師国家試験**において、数値目標である新卒者の合格率100%を達成できなかった。また、**保健師国家試験**において、**合格率が全国平均を下回った**。数値目標の達成に向け、今後、対策の充実に努められたい。(No. 16)
- ・世界全体がコロナ禍前の社会情勢に戻りつつある中、留学生等の受入人数の減少傾向、海外派遣参加学生数の横ばい傾向、海外大学との新規交流協定締結校数の鈍化に対し、オンラインなどの多様な手段を活用し、数値目標の達成に向けた方策を講じられたい。(No. 62、64)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 教育	41	0	1	37	3	0
2 研究	12	0	2	10	0	0
3 地域貢献	8	0	0	8	0	0
4 グローバル化	5	0	0	4	1	0
合 計	66	0	3 (4.5%)	59 (89.4%)	4 (6.1%)	0

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の11項目中10項目が「計画を順調に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・即戦力となる**職務経験者の採用**を継続し、法人の自律的な運営を担う人材を確保するとともに、職員の研修制度を充実させ、専門性の向上を図った。(No. 70、71)
- ・寄附金の受入拡大に向け、新たに**インターネットによる寄附申込**を開始し、自己収入の確保に努めた。(No. 74)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・管理的経費のうち、高騰した光熱費以外の経費について、前年度と比較して増加していることから、より効率的に予算を執行されたい。(No. 76)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 業務運営の 改善	7	0	0	7	0	0
2 財務内容の 改善	3	0	0	2	1	0
3 施設・設備の 整備、活用	1	0	0	1	0	0
合 計	11	0	0	10 (90.9%)	1 (9.1%)	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の2項目全てが「計画を順調に実施している」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・教育研究及び業務運営の改善と充実を図るため、令和5年度に受審する外部機関による認証評価に向け、自己点検・評価を行った。(No.78)
- ・新たに創設した学生広報大使を活用し、広報誌やSNSでの情報発信を行ったほか、国際学生寮の入居者による多言語でのSNS発信など、当事者目線での広報を展開し、ターゲット層への訴求力を高めた。(No.79)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 評価の充実	1	0	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報の充実	1	0	0	1	0	0
合 計	2	0	0	2 (100%)	0	0

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の5項目全てが「計画を順調に実施している」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ハラスメント防止に対する意識啓発に努め、ハラスメントの発生を引き続き防止した。(No. 82)
- ・セクシャル・マイノリティに関する全教職員対象オンライン研修を実施したほか、他大学での働き方改革や育児・介護休業等の取得の取組事例を全教職員にメールで配信し、ワーク・ライフ・バランスの実現に取り組んだ。(No. 83)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
1 安全管理	2	0	0	2	0	0
2 社会的責任	3	0	0	3	0	0
合 計	5	0	0	5 (100%)	0	0

業務実績評価集計表（令和4年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
教育 研究等	教育	41	0	1	37	3	0
	研究	12	0	2	10	0	0
	地域貢献	8	0	0	8	0	0
	グローバル化	5	0	0	4	1	0
	合 計	66	0	3 (4.5%)	59 (89.4%)	4 (6.1%)	0
法人経営		11	0	0	10	1	0
自己点検		2	0	0	2	0	0
その他		5	0	0	5	0	0
総合計		84	0	3 (3.6%)	76 (90.5%)	5 (5.9%)	0

業務実績評価集計表（令和3年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調 に実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の大幅 な見直し等 が必要
教育 研究等	教育	41	0	4	36	1	0
	研究	12	0	2	10	0	0
	地域貢献	8	0	1	7	0	0
	グローバル化	5	0	1	4	0	0
	合 計	66	0	8 (12.1%)	57 (86.4%)	1 (1.5%)	0
法人経営		11	0	0	11	0	0
自己点検		2	0	0	2	0	0
その他		5	0	0	5	0	0
総合計		84	0	8 (9.5%)	75 (89.3%)	1 (1.2%)	0